

# 英語科学習指導研究委員会

## 一 テーマ

新学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びを実現するための外国語・英語学習のあり方  
～小中連携を通して～

## 二 テーマ設定の理由

今年度は小学校、中学校共に新指導要領の実施から数年が経過し、様々な成果や課題が見えてきている。また、新型コロナウイルスも2類から5類へと規制が緩和されたことにより、対話活動やグループ活動などが多く行われるようになるなど、環境の変化もある年度である。そんな中で、英語科においても主体的・対話的で深い学びを実現するために、お互いの考えや気持ちを伝えあう言語活動の工夫や、必要感のある場面設定、指導・支援のあり方について小学校、中学校でそれぞれ実践を重ねていくことがさらに求められている。

小学校では音声面の2技能(3領域)「聞く」「話す(発表、やり取り)」を重点的にコミュニケーション能力の素地を養ってきている。中学校ではその素地を生かし、4技能(5領域)の向上をめざした学習を進めコミュニケーション能力の基礎を養っている。しかし、実際の授業では、練習活動が多くなってしまい、言語活動の時間が確保されていなかったり、自分の考えや気持ちを伝えるのに抵抗を感じたりする子どもも居るなどの課題がある。

そこで、今年度は研究内容として次の2点に着目して研究を進めてきた。

- ① 主体的に互いの考えや気持ちを伝え合うための、目的・場面・状況の設定の在り方
- ② 話す意欲を高めるための個々への支援と評価の在り方

自己表現したり相手意識をもったりして取り組む言語活動を通して、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする姿を育てていくことは、小中学校関係なく共通の課題である。さらに、評価については小学校の教科化による評価や、中学校の新学習指導要領に応じた評価の捉えやその方法の差などに課題がある。それらの課題を少しでも解決できるようにと思い、本研究テーマを設定した。

## 三 研究の経過

第1回委員会	令和5年5月 2日(金)	研究テーマ設定と研究計画の作成	(教育会館)
第2回委員会	令和5年6月 9日(月)	教育課程事前全校研究授業参観	(東部中学校)
第3回委員会	令和5年6月20日(金)	教育課程事前全校研究授業参観	(傍陽小学校)
第4回委員会	令和5年8月10日(月)	教育課程研究協議会 研究協議Ⅱについて	(丸子北中学校)
第5回委員会	令和5年11月27日(水)	本年度の反省・研究のまとめの作成について	(教育会館)

## 四 研究の内容

### 1 教育課程研究協議会 上田市立傍陽小学校の実践に学ぶ

- (1) 外国語活動・外国語科研究テーマ  
自分の思いや感じたことを伝えるために、子ども自身で必要な情報を選び、活用するための支援のあり方

- (2) 外国語科学習指導案

① 単元名 Unit4 Summer Vacations in the World. 夏休みの思い出を伝え合おう。

② 単元設定の理由

自分の思いや感じたことを英語で表現するためには、まずは「英語で伝えたい」という願いを持つことが前提となる。そこで、「伝えたい」という願いを持って単元の最後にはスピーチができるように、相手意識を大事にした単元展開を計画した。

本校の6年生は、夏休みを前に、ALT であるポール先生から、アメリカの夏休みについて紹介してもらった。アメリカの夏休みの期間、宿題、過ごし方を知り、日本の夏休みとの違いについてそれぞれがおどろきを口にしていた。そこで、ポール先生から”What do kids usually do in summer?”と尋ねられ、日本の子どもたちの夏休みの過ごし方を伝えようという意欲を持った。JT (Japanese Teacher 以下 JT) と「自分の夏休みの思い出」をポール先生と友だちに紹介しよう」という課題がすすむと、「お盆にバーベキューするよ!」「キャンプ行く!」「真田祭り行く。」「おれも行く!」と夏休みの行事への楽しみを次々と口にしていた。

このような姿から、夏休みの実体験をポール先生と友だちに伝えるという本単元の目標に向かって、意欲を持ってスピーチの準備に取り組む姿が想起される。また、「ポール先生と友だちに自分の夏休みの思い出を紹介する」ために、自分の思い出を”I went to ~.” “I saw ~.” 等、さまざまな動詞の過去形を使って伝えようとするだろう。しかし、伝えたい思いに合う単語が分からずに悩む姿が予想される。

そこで、教師が ICT やヒントカードを準備し、子どもに提示する。子どもは、自分の思いや感じたことを伝えるために、自分自身で必要な情報を選び、それを基にして簡単な発表メモを作るだろう。また、分からない単語については、知っている単語や表現で言い換え、ジェスチャーや準備した写真等を使って何とか伝わるように工夫するだろう。さらに、ポール先生と友だちにもっと分かりやすく伝わるように、伝え方を工夫する子もいるだろう。自分だけのスピーチの準備ができて、より強く「伝えたい」と願いを持てるようにしたい。

このようにして、「伝えたい」という意欲を持って、そのために必要な情報を選び、活用し、自分の思いに沿った内容の英語スピーチをする外国語学習ができると考え、本単元を設定した。

- ③ 単元の目標 (話すこと [発表])

ア ポール先生や友だちに「夏休みの思い出」を紹介するために、夏休みに自分のしたことやその感想について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。

イ 「傍陽小学校 CAN-DO リスト」との関連

- ・話すこと [発表] における学習到達目標 (6 学年)

身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

④ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>&lt;知識&gt;I went to/enjoyed/ate ~. It was ~. の表現およびその関連語句について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;夏休みに自分のしたことやその感想について、I went to/enjoyed/ate ~. It was ~. の表現およびその関連語句を用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>ALT や友だちに、「夏休みの思い出」を紹介するために、夏休みに自分のしたことやその感想について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話している。</p>	<p>ALT や友だちに、「夏休みの思い出」を紹介するために、夏休みに自分のしたことやその感想について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。</p>

⑤ 単元展開の概要 (①～⑨：全9時間)

時間	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価の方法	教科書の扱い 教材等
<p><b>Our Goal:</b> ポール先生と友だちに「夏休みの思い出」を伝えよう。</p>			
<p>動機付けと新しい表現との出会い ①～②</p>	<p>①ポール先生に、アメリカの小学生の夏休みの過ごし方について聞き、日本との違いを見つけよう。</p> <p>②世界の夏休みの過ごし方を聞き、自分はどんな発表ができそうか想像してみよう。</p>	<p>・ポール先生から直接アメリカの話聞くことで、意欲が高まるようにする。</p>	教科書 P34-35
<p>英語表現を身につける ③～⑤</p>	<p>③夏休みの写真を使ってスライドを作ったり、発表内容を考えたりしよう。</p> <p>④⑤スライドの内容を使いながら、ate、went、enjoyed等を使った表現や、It was ~. の表現を学習し、友達と夏休みの思い出について伝え合おう。</p>	<p>・できるだけ時間を確保し、身に付けたい表現に音声で十分に慣れ親しむことができるようにする。</p>	教科書 P36  教科書 P37
<p>スピーチの準備をする ⑥～⑦</p>	<p>⑥発表のためのヒントメモを作り、練習して、スピーチ動画を撮影しよう。</p> <p>⑦スピーチ動画をペアで見、改善点を出し合い、もっと伝わる表現を考えて練習しよう。</p> <p><b>【本時：第7時】</b></p>	<p>・できるだけ児童の力で準備できるように支援する（ジャムボードを使ってスピーチメモを作る）。</p> <p>・なるべく知っている単語で伝わるよう、工夫することを伝える。</p> <p>・スピーチをする目的を確認し、その達成のために、出来事・詳しい内容・感想を入れることを全体で共有する。</p> <p>・スピーチをしている姿をタブレットに撮影し、自分でチェックできるようにする。</p> <p>・自分が一番伝えたいことを伝</p>	教科書 P38 タブレット

		えるための工夫を考えるように促す。	
ポール先生や友だちに発表する ⑧	⑧ポール先生や友だちに「夏休みの思い出」を発表しよう。	・発表を聞いて分かったことをALTや友だちから聞くことで、自分の伝えたいことが伝わった実感をもてるようにする。 ◎発表の様子や振り返りシートから評価する（発表の様子は動画でも撮影しておく）。	教科書 P39
まとめ⑨	⑨ほかの国の夏休みについてもっと知ろう。		教科書 P40-41

⑥ 本時案

【主眼】

ポール先生と友だちに、自分が過ごした夏休みの思い出を英語で伝えたいと思っている子どもたちが、ペアでスピーチの練習をする場面で、前時に録画したスピーチ動画を見て、お互いに良いところや改善点のアイデアを出し合い練習をする活動を通して、自分が一番伝えたいと思っていることが伝わるように内容や表情・ジェスチャー等を工夫して話すことができる。

【展開】

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・支援 評価	時間
あいさつ・課題把握	1. "How are you?"、日付、天気、"Where did you go this summer?" の4つの質問をペアでし合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日のプラス1クエスションは「夏休みはどこに行ったの？」だな。</li> <li>行った場所は”I went to ~.”で答えるのだな。</li> <li>〇〇ちゃんは海に行ったのか。いいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつはALT中心に行く。</li> </ul>	5
	2. 前時で撮影した動画をペアで見て「ポール先生と友だちに伝わるか」という視点で振り返り、本時の課題をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>海でどんなことをしたのかな。</li> <li>前回撮影した動画を見るのか。</li> <li>動画を人に見せるのは恥ずかしいけど、ペアは誰だろう。</li> <li>「より伝わるアイデア」って例えばどういうことだろう。</li> <li>表情が暗いな。</li> <li>もっと楽しそうに話せばいいのかな。</li> <li>ジェスチャーを入れたら分かりやすいのではないかな。</li> <li>美味しかったご飯の味はどんなだったのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善点を遠慮なく言えるペアになるよう留意する。</li> <li>HRTがスピーチしている場面を全体で見ながら、改善点と、より良くするための具体的なアイデアを出し合うことで、活動内容を明確にする。</li> <li>より伝わるスピーチにするための工夫を児童から引き出し、ワークシートの該当箇所に記入するよう伝える。</li> <li>ワークシートの記入の仕方と活動内容を伝える。</li> </ul>	10
Today's Goal: ペアで練習し、伝えたい内容がより伝わるスピーチにしよう。				

スピーチについてアドバイスし合おう	<p>3. ペアで前時に撮影した動画を見て、改善点をワークシートに書く。</p> <p>4. ワークシートに書いた改善点を元に、ペアでアイデアを出し合い、より良い内容や表現方法を考えて、試しながら何度も練習する。</p> <p>5. 最後にもう一度動画を撮影する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な単語はヒントメモを使うとしっかり伝わってくるな。</li> <li>・一番伝えたいことは〇〇だけど、その気持ちがあまり伝わらないな。気持ちを表す文を増やしたらどうだろう。</li> <li>・「酸っぱい」って英語でなんて言うんだらう。ピクチャーディクショナリーで調べてみよう。</li> <li>・「いとこ」はピクチャーディクショナリーにはのっていないみたい。グーグル翻訳で調べてみよう。</li> <li>・調べた単語は発表メモにメモしておこう。</li> <li>・全体的に声が小さいから、もっと大きな声にしたら楽しさが伝わるんじゃないかな。</li> <li>・表情が楽しそうじゃないから、笑顔でスピーチしたらどうだろう。</li> <li>・大きさが伝わるようにジェスチャーを使ってみたらどうだろう。</li> <li>・〇〇さんは声が大きくなってきた。</li> <li>・さっきより良くなっている気がする。</li> <li>・ジェスチャーをつけて話せるようになってきた。</li> <li>・“sour”という単語を使ってみたよ。「酸っぱい」表情をしながら言ってみたら友だちにも伝わったよ。</li> <li>・始めより伝わる表現になったかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに、改善のための具体的なアイデアを記入するよう伝える。</li> <li>・より気持ちを伝えるために、内容を追加したい児童には、ピクチャーディクショナリーやグーグル翻訳を使ってよいことを伝える（調べた単語は発音を聞いて、聞いた通りのカタカナでメモをしても良い）。</li> <li>・改善点が思いつかないペアには、何を一番伝えたいのかを確認し、それを伝えるためにはどうしたらよいかを児童と一緒に考える。</li> <li>・自分の姿を確認したい児童は、タブレットで何度でも撮影してもよいことを伝える。</li> <li>・自分の気持ちが伝わるような単語を探したり、ジェスチャーをつけたり、声のトーンを変えたり等、改善しようと努力している様子が見られる児童にそのよさを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>内容や表情、ジェスチャー等を工夫して話している(ワークシート・取組の様子から)。</p> </div>	20
作った内容を振り返ろう	<p>6. 最後に撮影した動画を見て、改善後のスピーチが良くなったかどうかを振り返る。</p> <p>7. 友だちの振り返りを聞いて、次時への意欲を持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェスチャーをつけてみたら、どのくらい大きいかわかるな。</li> <li>・気持ちが伝わる単語が見つかったよ。</li> <li>・間違えても伝わるのが大切なんだ。</li> <li>・友達の話はどんなかな。聞いてみたい。</li> <li>・ポール先生にも伝わるのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に使ったワークシートに記入するよう伝える。</li> <li>・友だちの振り返りを聞いて、次時に、自分の発表も友達の発表も楽しみになるような声かけをする。</li> </ul>	10

【討議の柱】

- ① ワークシートを基にペアで課題を出し合い、発表練習をしたことは、自分の思いにより近い内容を英語で伝えることにつながったか。
- ② ALT や友だちに「夏休みの思い出」を伝えるという場を設定し、簡単なスピーチメモを作り、写真や思い出の品物を用意したことは、「伝えたい」と思いを持って取り組む姿につながっていたか。

(3) 成果と課題 (○成果 ●課題)

討議の柱①について

○自分で課題を持つことが苦手な児童にとっては、ワークシートのチェック項目についてペ

アで振り返ることで自分の課題が明確になって良かった。ワークシートの評価の観点が多かったが、自分のスピーチに合わせて、必要な項目を選んで取り組めたので良かった。また、JTの「5つの項目の中の1つでもいいよ」という声かけも有効であった。

- ペアで練習し撮影し合う際に、ワークシートに書かれた評価を確認しながら、「声が小さくて聞こえない。もっと大きい声のほうがいいんじゃない」「顔が見えないよ」と互いに声をかけあって繰り返し練習する姿が見られた。最後にはワークシートに練習した後の評価を記入することで、この1時間の学習をペアで振り返っていた。
- ペア活動がうまく機能していたペアと、そうではないペアがあった。うまく機能していたペアは、互いのスピーチを撮影し合いながら表情や伝え方などを評価し合う声かけを行っていた。うまく機能しなかったペアは、個人でスピーチ文を修正する活動で終わってしまい、ペアで発表練習をする活動までたどり着けなかった。中間評価を入れ、うまく機能しているペアの取り組みを全体で共有することも有効であったと考えられる。

討議の柱②について

- 夏休みの思い出を写真に撮影して、スライドを作成したことで、「楽しかった思い出を伝えたい」という気持ちを持って取り組んでいた。伝えたい単語が分からない時に、進んでGoogle翻訳で調べる姿や、ペアで撮影し合う中で「どうだった？」と相手の反応を確認しながらスピーチを練り上げていく姿からも子どもたちが「伝えたい」という思いを持って取り組んでいたと考えられる。
- 原稿ではなくスピーチメモを作ったことで、英文の正確さよりも、どうやったら相手に伝わるかに重点を置いてスピーチの練習に取り組んでいた。
- 夏休みの前に「Paul先生とクラスの友だちに夏休みの思い出を伝えよう」という課題が座った。伝える相手ははっきりとしていたこと（相手意識）と、目的を持ってスピーチに必要な材料を集められたことが子どもたちの意欲につながったと考えられる。
- Kさんは「神輿が重かった」を伝えたい、とペアに伝えていた。ペアで協力して「heavy」という単語を導いたが、「I was heavy.」となってしまった。「伝えたい」という気持ちは強くあったが、子どもが作った英文を正しく修正していくのを、JTとALTでどのように支援していけば有効か、考えたい。
- 単元の最初に夏休みの思い出のスライドを作成し、スライドを基にペアで過去形の表現練習を重ねていった。ペアで練習をしながら自分のスピーチに必要な表現を身につけ、内容を修正していくことはできたが、夏休みの思い出をくり返し扱ったせいなのか、単元の最後のスピーチの場面では、初めて夏休みの思い出の写真をペアに見せたときのような意欲の高まりは見られなかった。単元の最初から「夏休みの思い出」を材料として言語活動を行うのであれば、最後の発表の場面まで意欲が継続するような工夫が必要であると感じた。

## 2 教育課程研究協議会 東御市立東部中学校の実践に学ぶ

### 1 学習指導案

【学 年】 中学校第2学年

【単 元 名】 SUNSHINE 2 Our Project④「夢の旅」を企画しよう

【領域別目標】 「話すこと 発表」イ

【単元の目標】 グループで旅行を企画し、それぞれがわかりやすいプレゼンテーションを行う。

### 2 単元設定の理由

本単元では、生徒が目的意識を持って活動に取り組めるよう、「夢の修学旅行を企画しよう」という場面を設定した。教科書では「夢の旅」とされているが、「修学旅行」に置き換えることで生徒が旅行の場面をイメージしやすくなる考えた。

また、生徒が旅行の行き先を具体的な理由や根拠をもって選ぶことができるよう、各自が調べた「行き先」についてグループ内でペアを変えながらやり取りを繰り返し、お互いの考えを深められる時間を

設けることにした。そのため、本単元は学習指導要領の目標にある「話すこと（発表）」が単元のゴールであるが、本時ではメモを見ながらでの「話すこと（やり取り）」に近い活動を設定し、ペアの聞き手からの質問を受けることによって、話し手が調べた行き先の魅力をより伝えられるようにした。こうすることで、単元終末のグループでの発表活動を、より充実させることができるだろうと考えた。

さらに、単元終末のプレゼンテーションの際には、これまで学習した英語を使って自信をもって英語で発表ができるよう、グループ内でのやり取りを動画に撮って記録を残し活用する。動画を見直しながらいまうまく言えなかった表現をペアで検討したり、足りない情報について後で調べ学習をしたり、発表原稿を作る際にやり取りで使った英語を参考にしたりすることで、より豊かな表現を用いて発表ができるのではないかと考えた。

「修学旅行で行きたい国をグループで発表し、クラスの行き先を考えよう」という Lesson Goalのもと、生徒が場面にふさわしい理由や根拠を具体的に示し、これまで学習した英語を使いながら自信をもって表現するためには、目的意識をもってやり取りを繰り返しながら考えを深めていく活動が適切であると考え、本単元を設定した。

### 3 単元の評価規準

#### 【話すこと（発表）】の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>&lt;知識&gt; ア 基本的な英単語や、肯定文や疑問文の語順の構造のちがいを理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; イ 調べた旅行先について、紹介する内容や自分の考え、気持ちを整理し、基本的な英単語や既習の文法を用いて伝えたり、話し手に質問をしたりする技能を身に付けている。</p>	<p>ウ 同じクラスの仲間が「行ってみたい」と思ってもらえるように、「夢の修学旅行」の行き先の紹介したいことについて、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある内容を発表している。</p>	<p>エ 同じクラスの仲間が「行ってみたい」と思ってもらえるように、「夢の修学旅行」の行き先の紹介について、事実や自分の考えを整理し、それらを「魅力」として相手に伝えたり、話し手に質問をしたりしようとしている。</p>

### 4 単元展開

Lesson Goal： 修学旅行で行きたい国をグループで発表し、クラスの行き先を考えよう。

時	学習内容	指導・支援	評価の観点
1	<p>Today's Goal：「夢の修学旅行」の行き先を決めて、その国について調べよう。</p> <p>1 「Small Talk」を行う。 お題「Where(Which place) do you want to go in Japan?」</p> <p>2 教師のモデルトークを聞き、本単元の目標を確認する。</p> <p>3 修学旅行で行きたい場所を生徒がそれぞれで決め、その行き先について調べてマッピングでまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1つの行き先に対して「説明・概要」「食事」「有名な観光地」「できること」などの話すポイントをはっきりさせて、教師側からモデルトークを示す。</li> <li>・ 旅行先を決める際は、教師が用意をした「海外旅行先 人気ランキング」等の一覧から選ぶ</li> <li>・ タブレットを用いて、調べ学習をできるようにする。</li> </ul>	—

	4 必要に応じて、英語表現を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元終末はグループで1つの行き先を選び、1、2枚程度の写真を見せながら発表することを伝え、発表の具体的なイメージをもたせる。</li> <li>・調べたことは、完全な英文ではなく日本語を基本としてマッピングにまとめることを伝える。</li> </ul>	
2 本 時	<p>Today's Goal：自分が行きたい旅行先について魅力を伝え合おう。</p>		ウ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「Small Talk」を行う。 お題「Where do you want to go in Nagano?」</li> <li>2 教師とALTのモデルトークを見る。</li> <li>3 前時で調べてまとめたマッピングをもとに、グループ内でペアをつくり、互いにおすすめの修学旅行先について英語でやり取りをする。</li> <li>4 やり取りを動画で記録する。</li> <li>5 やり取りの動画による振り返りや、教師や友だちの支援・指導を経て、さらに相手に調べた行き先の魅力を伝えたり、話し手に質問をしたりできるようにする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッピングの例を示し、そのマッピングを基にした教師とALTとのモデルトークを行い、生徒が本時の活動のイメージをもてるようにする。</li> <li>・ペアの相手を変えて、やり取りをする回数を増やせるようにする。</li> <li>・会話の様子を動画で撮り、生徒が自分のやり取りの様子を見ることができるようにし、より良いやり取りにつながれるようにする。</li> <li>・生徒がやり取りをする上で困っていることや、うまくいったことをクラス全体で共有できるように机間指導や全体指導を行う。</li> </ul>	
3	<p>Today's Goal：友だちとのやり取りを振り返って、グループで行きたい旅行先を決め、発表の準備をしよう。</p>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「Small Talk」を行う。 お題「What do you think about Tomi city?」</li> <li>2 6人で1グループを基本とし、行きたい夢の修学旅行先を決める。</li> <li>3 発表する行き先をグループ内で決めたら、その行き先についてさらに調べてマッピング等にまとめる。</li> <li>4 前時で話した内容をもとに、グループ内で書く内容を分担して、メモを用意するなどの発表の準備をする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで行き先を決める際に、前時に撮った動画を観られるようにする。</li> <li>・前時のグループ内でのおすすめの行き先についてのやり取りを参考にして、行き先をグループで1つに絞るよう伝える。</li> <li>・必要に応じて、タブレットで調べ学習をしてよいことを伝える。</li> <li>・発表の際に、1人あたり3～4文程度のまとまった量の英文で発表することを全体で確認をする。</li> <li>・発表で話す内容が準備できたら、発表時に使う写真データ1、2枚程度をタブレットに保存してよいことを伝える。</li> </ul>	
4	<p>Today's Goal：クラスの仲間に、自分達のおすすめする国を紹介しよう。</p>		アイウエ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「Small Talk」を行う。 お題「What do you think about our class?」</li> <li>2 マッピングやメモ等を見ながら、発表の練習を行う。</li> <li>3 クラス全体とALTの前でグループごと「夢の修学旅行」の発表をし、発表後に質問や感想を述べる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の様子を撮り、工夫をしてよりよい発表になるように練習時間をとる。</li> <li>・各グループの発表後に質問や感想を述べられるように、他グループの発表を聞くように指示する。</li> </ul>	



5 単元に関わる教材研究

「話すこと【発表】」イ	子どもの視点から	<p><b>資質・能力の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールトークを積み重ね、週末の予定や自分の好きなものについてなど身近な話題について話したり、相手の返事に対して理由をたずねたりすることに慣れてきている。</li> <li>・自分が調べたり考えたりしたことを、相手に英語で伝えようという意欲を持ち、これまで学習した英語を用いて伝えようとするができる。</li> <li>・伝えたいことを、これまで学習した言語材料で表現することができずに言語活動が成立しなかったり、短い表現で終わってしまったりすることがある。</li> </ul> <p><b>単元目標の共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もし修学旅行で海外に行けるなら、という「夢の修学旅行」を単元のテーマとして設定し、グループでプレゼンテーションを行い、ALT を含めたクラス全体でどのグループの発表がよかったかを定める。友だちと行くならどのような場所がよいかを考え、グループで発表する国を決めるために話し合うことにより情報を整理し、そこで出てきた情報や必要と気づいて調べた情報をまとめ、修学旅行にすすめだと思ふ理由や例を示しながら発表することを単元の目標とする。</li> </ul>
	教材の視点から	<p><b>題材と言語活動の関連付け</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢の修学旅行」について考えるとき、どのような内容がポイントとなるかを考え、その国で楽しめること、学べること、食べられるものはもちろん、物価や治安、旅行に要する日数、旅行に行く4月の気候など、必要な情報は何かを考え、修学旅行にすすめの国を選べるようにする。</li> <li>・旅行会社が作成している海外旅行先すすめランキングのサイトを使って行きたい旅行先を決め出す。修学旅行にすすめのポイントを書き出してマッピングを行い、そのメモを元にやり取りができるようにする。</li> <li>・グループでの発表を目標とし、グループ内で発表する国を選ぶためのやり取りも英語で行い、内容面も言語面も深めることができるようにする。</li> </ul>
	学習過程の視点から	<p><b>思考力・判断力・表現力の育成</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 来年4月に迫る修学旅行を意識させつつ、もし修学旅行で海外に行けるなら、どこの国がよいか、どんな視点で旅行先を選べばよいかを考える。</li> <li>② 用意したリストから、修学旅行にすすめだと思ふ国を選び、理由とともに英語で発表することを確認する。</li> <li>③ 友だちとのやり取りをすることで、発表に必要な情報に気づき、発表に付け加えたり調べ直したりすることを通して、発表の内容を深めていく。</li> <li>④ 教師のモデルや友だちとのやり取りの中で、必要な言語材料を適切な場面で使えるようにしていく。</li> </ol>

## 6 本時案

### (1) 主眼

修学旅行先として、行きたい場所を調べた生徒たちが、それらの魅力を伝え合う場面で、自分たちが話した動画を見返したり、うまくいかなかった表現を全体で共有したりすることを通して、おすすめの場所について意見や理由を伝えたり、相手に質問したりできる。 「話すこと（発表）」の指導事項「イ」

### (2) 本時の位置 4時間扱いの2時間目

前時：「夢の旅行」についてのモデルスピーチを読み、それぞれの生徒が旅行先を決め、情報を調べながらマッピングにまとめる。

### (3) 展開

	学習活動	予想される生徒の反応	・支援 評価	時間
導入	1 あいさつ 2 会話のモデルトークを見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回やった夢の修学旅行について、同じグループの人に話すんだな。</li> <li>・ティム先生はエジプトに行きたいんだな。</li> <li>・ピラミッドについて話をしているな。</li> <li>・何の話をしているのかよく分からないから、友達に聞いてみよう。</li> <li>・前に書いたマッピングしか見ちゃいけないのか、難しそうだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の授業で、各グループで行き先を1つに絞るために、今日の授業では同じグループの仲間に自分が調べた行き先について、やり取りを通して紹介するということを伝える。</li> <li>・モデルを示す際には、ALTのマッピングを生徒に見せながら行う。</li> <li>・この後のやり取りで使えるような表現を交えながら話す。</li> <li>・相手に質問をすることでどんどん情報を引き出せることに気づかせる。</li> </ul>	7
	3 Today's Goalを確認する。	<p><u>Today's Goal :</u> 自分が行きたい旅行先について魅力を伝え合おう。</p> <p><u>Today's Point :</u> 【全員で】・やり取りを繰り返しながら、より詳しく魅力を伝える。 【聞き手】・相手が調べた国の良さを知るために、質問をたくさんする。 【話し手】・自分が調べた行き先の魅力を伝えるための応答をする。</p>		3
展開	4 前時のマッピングを見ながら、調べた旅行先についてグループ内でペアをつくりやり取りをする。  *まず、ペアを2回つくってやり取りを行う。 *1人がペアに対して紹介する時間を区切る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイについてたくさん紹介しよう。</li> <li>・さっきの先生たちのようにやればいいのか。</li> <li>・調べていないことを質問されたけど、何て答えたらいいか分からないな。</li> <li>・「何をするのか」「食べられるもの」を聞けば、会話を続けられそうだな。</li> <li>・相手の意見にリアクションをとりながら会話をしたいな。</li> <li>・相手に「何をするのか」を聞かれたときに何と答えれば良いのだろう。</li> <li>・マッピングに書いたものの中で、どれをどんな順番で話せばいいかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでやり取りをする際に、動画を撮ることを指示する。</li> <li>・自分が行きたい旅行先についてペアでのやり取りを以下のように説明する。 ①おすすめしたい場所を話す。 ②相手のおすすめに対する質問やその他の魅力について質問する。 ③相手からの質問に答えたり、魅力を伝えたりしよう。 ④1分30秒ずつお互いのおすすめの国について話をする。</li> <li>・1回目のやり取り終了後、生徒の様子に応じて、相手にどんな質問ができそうか全体に共有をする。</li> </ul>	10
	5 それぞれのペアで動画を見返して、改善点を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問をうまく出せずに会話が止まってしまったな。</li> <li>・相手が何を話しているのか分からなかったけど、動画を見直してわかった。</li> <li>・食べ物については質問ができたからよく分かったけれど、観光地はよく分からなかったな。</li> <li>・質問をしてくれたのに、分からなくて答えられなかったけれど、なんて言え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画で撮ったものを見返し、どんなことを質問し、話ができなかったかを尋ねる。</li> <li>・Today's Pointに沿ったやり取りを意識できるように、全体に指導をする。</li> <li>・動画を振り返りながら、工夫した点や、うまくいかなかった点をペアで話し合う。</li> <li>・机間指導の中で生徒が困っていそう</li> </ul>	10

		<p>ば良かったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aさんは、Bさんの意見に対して I think ～を使って自分の考えを言っているな。</li> <li>・ もう少し情報を聞き出したいときに使える表現は何かな。</li> </ul>	<p>な部分を取り上げ、全体で共有し、助言をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sorry、 I don't know.</li> <li>・ How long?</li> <li>・ 生徒の様子から、聞き手が相手からより魅力を引き出せるような表現を、生徒とのやり取りを通して確認する。</li> <li>・ What can we see there?</li> <li>・ Can we climb?</li> <li>・ Is it delicious?</li> </ul>	
	6 違う相手とやり取りを行い、さらに自分の考えをより詳しく相手へ伝えられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さっきのやり取りで言おうと言えなかったことが、今度は英語で言えそう。</li> <li>・ what を使って、相手がおすすめる国でできることを聞いてみよう。</li> <li>・ 調べていなくて分からないときは、こう言えばいいのか。</li> <li>・ 質問されて言えなかったことは、次の授業で調べてみよう。</li> <li>・ 今度は、相手の答えにさらに質問を試してみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアを変え、先ほどの振り返りを意識して再度動画を撮りながら、やり取りをするように指示を出す。</li> </ul>	10
まとめ	5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後半の方がたくさん英語でやり取りすることができた。</li> <li>・ 友だちが紹介してくれた行き先について、会話がもっと続くように、質問をもっとたくさんできるようにしたいな。</li> <li>・ Aさんが話したグアムも良いな。</li> <li>・ Bさんが話したフランスの観光地以外にも、良い観光地がないかな。</li> <li>・ できることについてまだ情報が足りないから調べたいな。</li> <li>・ 旅行先について友だちと英語で話すことができた。</li> <li>・ 最初はなんて言ったらいいのかわからなかったけれど、最後のやり取りでは質問をして、相手の国についてよく知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画を振り返って、うまくいった、分かったことなどペアで話し合うことを伝える。</li> <li>・ 振り返りカードに書かれた項目に沿って、振り返りを書くように伝える。</li> <li>・ 次回の授業で、行き先をグループで1つ選んでその国についての発表準備をするように伝える。</li> </ul>	10
			<p>評価</p> <p>同じクラスの仲間が「行ってみたい」と思ってもらえるように、「夢の修学旅行」の行き先の紹介したいことについて、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある内容を発表している。</p> <p>「話すこと（発表）」</p>	

## 研究の成果

①生徒が自身の言語活動の様子を見返すことは、ある程度有効な手立てであったと感じた。動画を見返す中で、「こういう言い方もできる」「他に良い言い方はないかな」と、より良い英語のやり取り・発表をするための手立てとすることができた生徒が見てとれた。会話の中では聞き取れず、内容がうまく掴めなかった生徒も動画を見返す中で、内容を理解することができた。その中で、ペアの発言から新たな気づきをもらい、次のやり取りではさらに情報を加えて話すことができた。友達の表現をヒントに表現を広げている生徒が多く、やり取りを繰り返したことは有効であった。

一方で、言語活動中に沈黙が長かったり、自分の気持ちをうまく表現できなかつたりする生徒にとっては、動画を見返すことは、生徒の言語活動へのより主体的な参加にはつながっていないとも感じた。

②「場面」や「相手意識」は授業内で今回の言語活動を行う上では、十分なものであったと考える。「もしクラスの全員で、～の国へ修学旅行で行けたら」という場面設定は、意欲的に行き先を調べたり、相手に伝えたりするための動機付けや、紹介してくれる相手に対して会話を継続させたり、より質問

をしようとしたりするための相手意識向上につながった。

一方で、異なる国を紹介する生徒同士のやり取りを設定しただけだったが、最初に同じ国を選択した生徒が互いに意見を交換してマッピング（メモ）の情報を整理する時間を設けても良かった。同じ国を紹介したい生徒同士のやり取りを通して、より多くの魅力に気付いたり、使える表現を共有したりすることができ、次のやりとりがより活発になるのではないかと考えた。

### 今後の課題

生徒にとっては、「即興」「原稿なし（メモ・マッピングのみ）」などを活動の中心とする言語活動そのものに対してのハードルが非常に高い。言語活動に全ての生徒が参加できるようにするための、日頃の授業での素地づくりが重要である。

教師側から言語材料をどの程度示すのかを、毎時間の授業で常に意識する。言語材料をクラス全員に対して示しすぎてしまうと、言語活動として成立しなくなってしまう。一方で、手立てが少なすぎると言語活動が停滞してしまう。言語材料を示すバランスや適切なタイミングを考えたい。

## 3 教育課程研究協議会 研究協議IIについて

### (1) 小学校

今年度の研究協議IIでは、グループごとに Small Talk の演習と作成を行った。演習では、委員長鈴木が例として夏休みの思い出の Small Talk の実践を見せた。指導者が一方的に話すことの無いように、質問をしたり、クイズ形式にするなどの工夫や、視覚的な情報を入れて理解を促すために、スライドを作ったり、ジェスチャーなどをつけたりするなど Small Talk づくりのポイントを紹介した。

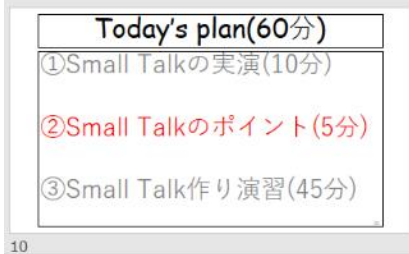
図1 実際に用いたパワーポイント資料

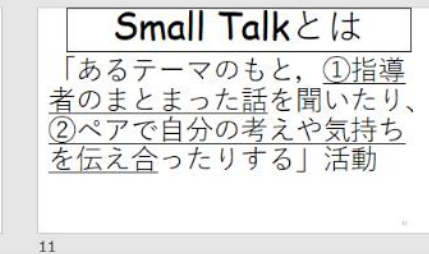























その後、英語専科の先生方や委員の先生方を中心に、2学期の授業で実際に活かせるように Small Talk づくりを行った。

・以下参加された先生方で作成した Small Talk の一部

図2 好きな食べ物についての Small Talk

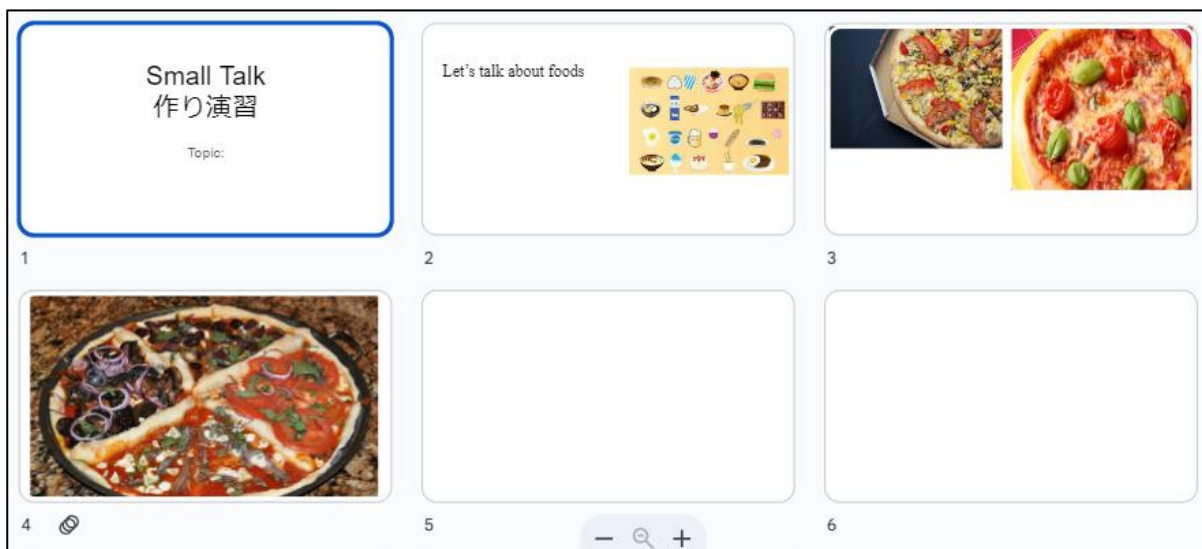


図3 得意なことについての Small Talk

<p>Small Talk 作り演習</p> <p>Topic:</p>		
1	2	3

図4 誕生日にほしいものについての Small Talk

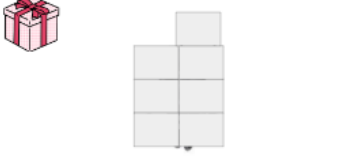

<p>Small Talk 作り演習</p> <p>Topic: What do you want for your birthday?</p>		
1	2	3

図5 夏休みの思い出についての Small Talk









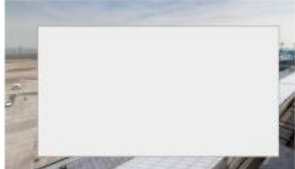

<p>Small Talk 作り演習</p> <p>Topic : Summer Vacation</p>	<p>How was your summer vacation?</p> 	<p>How many family do you have?</p> 
1	2	3
<p>Where did you do?</p> 	 <p>北半球 南半球</p>	<p>What did you eat ?</p> 
4	5	6

図6 学校の行事についての Small Talk

<p>Small Talk 作り演習</p> <p>学校の行事</p>		
1	2	3
		
4	5	6

また、橋爪指導主事から Small Talk について以下のご指導を頂いた。

①Small Talk 活動の明確化

新しい表現を習得するための Small Talk か既習表現を習得するための Small Talk の区別

②教師の Small Talk は難しくせず、簡単に子どもたちの半歩先程度に

③視覚的情報 文字より画像写真などの視覚的情報

④本物の情報 その人の本当の情報でコミュニケーションをすることで、新たな一面に気づける。

実際のやり取りを見せられないのが残念であるが、短い時間の中で、それぞれの先生方が工夫して子どもたちが話したくなるような Small Talk を作成した。先生方の Small Talk を見させていただいて、Small Talk のポイントは、指導者自身もその話を楽しみ、形式ばかりに注目するのではなく、内容面で「本当に？」や「すごい！」となるような話の深まりができるとコミュニケーションの楽しさをつかみ、さらに Small Talk を行ってみたい！という意欲につなげていくことが大切であると感じた。この演習をきっかけに実際に 2 学期 Small Talk をおこなってみたという話も頂いた。Small Talk をなるべく継続的に行うことで、子どもたちが楽しみながら「話すこと(やりとり)」の力をつけられるようにしていきたい。

(2) 中学校

今年度は参集での教育課程研究協議会実施となり、新学習指導要領が施行されてから初めて上小地区内の多くの英語科教員が集まる機会であった。この間、各中学校では、「指導と評価の一体化」を目指し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた実践と評価が行えるよう試行錯誤してきた。しかし、評価については、各校「評価方法が適しているのか」「評価する内容がこれでよいのか」と悩みを抱えながら評価を行っている実態がある。そこで今年度は、「各校の評価の実態を共有すること」「評価につながる単元末活動の実践を共有すること」の 2 点を行った。

【各校の評価の実態共有より】

始めに各校の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点をどのような割合で評価しているかを共有した。各校の 3 観点の評価割合に大きな差はなかった。しかし 3 観点の評価については、一律に評価することが求められている。各観点に比重をつけることなく、妥当な評価をしていけるよう、研究を続けていく必要がある。

各観点の評価内容については、各校試行錯誤を重ねていることがわかった。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」については、定期テストが評価材料の大部分を占めている。ペーパーテストであるため、明確に評価できるという利点がある一方、その問題が「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」どちらを測る問題であるかが区別できていないという課題も明らかとなった。すべての英語科教員が根拠をもって問題作成ができるように、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の区別については、学習指導要領をよく読み、的確にできるように研究を重ねていく必要がある。また、単元ごとにテストを行っている学校もいくつかあった。単元毎の評価の在り方については、まだ十分に研究できていない部分であるため、今後も各校の先事例を共有しながら研究を進めていきたい。

評価の内容について多くの学校で悩みとして挙げてきたことは「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価していくかについてである。提出物の提出状況や発言の回数などで評価することが妥当ではないことは既知の事実である。基本的に評価規準の作成に当たっては、「思考力・判断力・表現力」の評価規準を「しようとしているかどうか」を見ることとなる。「しようとしている」状態は見えにくい部分であるため、多くの生徒について、どのように「主体的に学習に取り組む態度」を見取るか事前の

計画が大切であるということが話題となった。単元開始前に、明確に「目指す生徒の姿」をイメージし、そのために必要な単元末課題を考え、その課題達成のために1回1回の授業を位置づける「バックワードデザイン」で単元計画を立案し、単元末課題達成のために生徒がどのように試行錯誤しているかを振り返りシート等で見取るなどといった工夫が必要である。

### 【単元末活動の実践共有より】

一人ずつ今年度行った単元末活動の評価基準やワークシートなどを持ち寄り、グループ毎共有を行った。紹介された活動については本稿では割愛する。学校毎、教科書の Our Project のページを工夫したり、おすすめの観光地紹介などのプレゼンを行ったりと、「話すこと[やり取り]」や「話すこと[発表]」、「書くこと」の言語活動を行っていた。それぞれの発表を聞き、活動のねらいや評価基準、手立てなどを学ぶことができた。

この共有で課題として挙げられたことが主に2点あった。1点目は Can-Do リストとのつながりである。各校、Can-Do リストを作成するようになっているが、単元末活動の際にその活動が Can-Do の中のどの部分に当たるのかが生徒と共に十分確認できていない。単元末活動実施の際には、生徒がその活動を通してどのような英語の力を身につけるのか見通しを持つことが重要とされている。Can-Do リストを作成するだけで終わらせることなく、生徒・保護者と共有し、単元末活動とのつながりを示し、生徒が力がついてきたことを自覚できるように工夫していく必要がある。そのことが、主体的に学習に取り組む態度の評価につながっていくとも考えられる。

2点目は、生徒のパフォーマンスの評価の難しさである。実際に単元末活動での生徒のパフォーマンスをどのように評価していくかが難しいとの声が多く聞こえた。ALT に評価してもらうのがいいのかという疑問や、同じ学年内で教科担任が異なる場合、評価の基準がバラバラになってしまうとの困難点が共有された。単元末活動の評価に当たっては、ルーブリック、いわゆる評価基準の作成が重要になると考えられる。英語科内でルーブリックを共有・検討し、教科担任毎で評価が異ならないように留意していくことが重要である。

今回は新学習指導要領になってから初めての参集形式での開催ということで、日々の授業や評価について様々な疑問点や課題点が挙げられた。上述したものはその中のわずかであるが、このように実態を共有することを通して、上小の英語教育充実のための一つの道筋を探っていきたい。

## 五 研究のまとめと成果

本年度は新型コロナウイルスに対する規制が緩和され、教育課程研究協議会が久しぶりに参集で開催されることになった。参集をすることで、子どもたちの実際のやり取りを生で見ることができたり、授業全体の雰囲気をつかむことができたりするなどの利点があった。また、参集することで、他校の先生方と授業について語り合ったり、一緒に研修したりすることで、上小の英語教育に対して連帯感が生まれてきたのではないかと感じる本年度であった。

傍陽小学校の実践では、「ALT と友だちに【夏休みの思い出】を伝えよう」という単元の Goal を設定し、ALT や友達に夏休みの思い出を伝えたいという児童の願いのもと、必要感のある場面設定を設けることで意欲を高め、見通しをもって活動に取り組んでいく実践につながった。児童は ALT や友達に伝えたい内容がたくさんあるが、それを英語にできないことに課題を感じていた。英語にして伝えてみたいという気持ちが表れ、ヒントカードを頼りにしたり、Chromebook などの機器を使ったりして、何とか ALT や友達に伝えようという姿が見られた。そういった本当に自分が伝えたい英語を調べたり、練習したりすると定着に結びつくのではないかと思う。また、自分の思い出で一番伝えたい部分はどこなのか、相



手に分かってもらえるようにするにはという課題も感じていた。ペアで交互に発表し合い、相手に自分の一番伝えたいことは伝わっているか確認しながら、さらに自分の発表を試行錯誤して変えていくことは、コミュニケーションをとる上で大切なことではないかと思う。

東部中学校の実践では、「修学旅行で行きたい国をグループで発表し、クラスの行き先を考えよう」という単元のゴールを設定した。「どんなことを伝えれば友達に行ってみたいと思ってもらえるか」を相手を変えてやり取りを繰り返し行うことで、言語活動を通して、行きたい国についてより詳しく「魅力」を伝えられるかにつながっていた。

また、相手を変えることで、これまでに出てこなかった質問を聞いたりすることで、さらに自分の発表をブラッシュアップすることにつながった。

2校の実践に共通していることは、「目的・場面・状況の効果的な設定」である。だれにどんな場面でどんな状況で何のために伝えるか子どもたちが本当に伝えたいと思うと、子どもたちは自然と伝える内容を吟味し、練習し始める。そのことが、研究テーマでもある「主体的・対話的で深い学び」につながっていくと考えられる。また、「目的・場面・状況」は、どういう言語材料を使って、どう表現すれば良いか「思考・判断・表現」の力を高めるためには欠かせないものである。これからの時代、「知識・技能」を高めることももちろん必要だが、その「知識・技能」をどのような場面で、どうやって使っていくか判断し表現する力が求められてくると考える。2校の実践の様に、言語活動を通して、そうした力を高める様な授業づくりをしていきたい。

新型コロナウイルスへの規制が徐々に緩和され、久しぶりに対面でのコミュニケーションの良さやすばらしさを感じる本年度であった。外国語の授業においても友達や先生、ALTの先生や地域の人や海外の人など色々な人とのコミュニケーションを通して、相手意識をもって、楽しくコミュニケーションできる授業づくりが求められてきている。そのような授業づくりができるように、今後も学習指導委員会として研究を進めていきたい。